

船舶事故調査報告書

平成23年3月24日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵男（部会長）
 委員 山本 哲也
 委員 石川 敏行

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成22年11月15日 16時30分ごろ～23時40分ごろの間）
発生場所	愛知県名古屋港第6区 名古屋市名古屋港高潮防波堤中央堤東灯台から真方位212° 4,000m付近 （概位 北緯34° 58.0′ 東経136° 47.8′）
事故調査の経過	平成22年11月25日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	貨物船 ^{けいよう} 慶洋丸、499トン 135594、三洋汽船株式会社 77.65m×11.50m×7.05m、鋼 ディーゼル機関、1,324kW、平成10年10月
乗組員等に関する情報	船長 男性 60歳 五級海技士（航海） 免許年月日 昭和48年6月1日 免状交付年月日 平成19年1月10日 免状有効期間満了日 平成24年2月27日 次席一等航海士 男性 56歳 二級海技士（航海） 免許年月日 昭和62年6月4日 免状交付年月日 平成19年3月5日 免状有効期間満了日 平成24年6月3日
死傷者等	死亡 1人（次席一等航海士）
損傷	なし
事故の経過	本船は、船長及び次席一等航海士ほか3人が乗り組み、名古屋港で仮泊中、一等航海士が、平成22年11月15日16時30分ごろ、後部甲板で水洗いしたホースの後片付け作業をしている次席一等航海士を目撃したものの、23時40分ごろ、抜錨作業に次席一等航海士が出てこなかったことから、船内を捜索したが、次席一等航海士がいないことに気付いた。 その後、次席一等航海士は、11月19日08時10分ごろ、愛知県常滑市沖において遺体となって発見された。 次席一等航海士の死因は、溺死の疑いと検案された。
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北、風力 1、視界 良好 海象：平穏

その他の事項	<p>次席一等航海士は、仮泊直前の航海当直において飲酒状態であったために、船長が航海当直を交代した。</p> <p>次席一等航海士の救命胴衣は自室に残されていた。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>不明 なし なし</p> <p>次席一等航海士の死因は、溺死の疑いと検案された。</p> <p>本船は、名古屋港で仮泊中、次席一等航海士が16時30分ごろ作業を行っているところを目撃された後、23時40分ごろ、次席一等航海士がいないことに気付いたことから、この間において、次席一等航海士が落水したものと考えられる。</p> <p>次席一等航海士は、救命胴衣を着用していなかった可能性があると考えられる。</p> <p>次席一等航海士は、仮泊直前の航海当直において飲酒状態であったことから、作業中も酔った状態であった可能性があると考えられるが、次席一等航海士が落水した状況については、目撃者がいないことから、明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が名古屋港において仮泊中、次席一等航海士が落水したことにより発生したものと考えられる。</p>	